

(資料2)

MARRCC(レクリエーション初期アセスメント) - 身体的領域

利用者名:

記入者名:

		項 目	指 標
A	はい いいえ	自主的に移動できる。	自主的に(介助有無は不問)移動が可能である。又は、車椅子を利用するが、地上移動はほとんどの場所において自力で車椅子を動かすことができる。
	はい いいえ	全て又はほとんどの日常生活動作が自力でできる。	ほとんど介助無しで着替え、身だしなみ、食事、排泄をすることができる。
	はい いいえ	持久力 - 活動に参加できる。	疲労が目立ってひどくなることなく、1時間以上続く活動に積極的に参加できる。
B	はい いいえ	右腕と右肩の動作機能範囲	右腕で右肩に触れ、頭より上にその手を上げることができる。
	はい いいえ	左腕と左肩の動作機能範囲	左腕で左肩に触れ、頭より上にその手を上げることができる。
	はい いいえ	右手の動作機能	日常生活動作や選んだ余暇活動で右手を使うことができる。
	はい いいえ	左手の動作機能	日常生活動作や選んだ余暇活動で左手を使うことができる。
C	はい いいえ	介助付きでのみ移動することができる。	次の項目のうち1つに当てはまる。  1. 移動に車椅子を利用しないが、安全な移動のため1~2名が直接付き添う必要がある。  2. 車椅子を利用するが、自力ではほとんど車椅子を動かすことができない。
	はい いいえ	疲れやすい。	30分以上続く活動に参加した後、疲労が目立ってひどくなる。
	はい いいえ	ベッド又は歩行器を使ってでしか活動に参加できない。	次の項目のうち1つに当てはまる。  1. 1日中又はほとんどの時間をベッドで過ごす。  2. 体力低下や衰弱・疲労により、歩行器を使用する。

MARRCC(レクリエーション初期アセスメント) - 社会的領域

利用者名:

記入者名:

	項	目	指	標
A	はい	いいえ	家族や知り合いが定期的に訪れる。	少なくとも週に3回以上、家族や知り合いが訪れる。
	はい	いいえ	自分から人に話し掛け、社会的交流の機会を持つとする。	少なくとも毎日2回以上、家族、知り合い、職員や他の利用者と、自分から積極的に社会的交流の機会を持つとする。
	はい	いいえ	社会的交流のある活動に定期的かつ積極的に参加する。	週に3回以上、社会的交流のあるグループ活動に積極的に参加する。
B	はい	いいえ	他人からの話しかけや社会的交流に反応する。	他人からの社会的交流の機会に対して口頭で反応する。
	はい	いいえ	少人数のグループの場で肯定的な反応をする。	少人数のグループの場で、次の項目のうち少なくとも1つにあてはまるような肯定的な反応をする。 ・自らの意志で活動の場に留まる ・社会的交流に反応する ・社会的交流プログラムに対して肯定的な反応を口頭で述べる ・社会的交流プログラムに対して肯定的な反応を口頭以外で示す(即ち、笑う、表情や姿勢をリラックスさせる、うなづくなど)
	はい	いいえ	大勢のグループの場で肯定的な反応をする。	大勢のグループの場で、次の項目に少なくとも1つにあてはまるような肯定的な反応をする。 ・テキパキしている ・適切な機会にコミュニケーションを取る ・自らの意志で活動の場に留まる ・社会的交流プログラムに対して肯定的な反応を口頭で述べる ・社会的交流プログラムに対して肯定的な反応を口頭以外で示す(即ち、笑う、表情や姿勢をリラックスさせる、うなづく、手を叩くなど)
	はい	いいえ	社会的交流のある活動に積極的又は消極的に参加する。	週に1回以上、社会的交流のある活動に積極的又は消極的に参加する。
C	はい	いいえ	社会的交流に対して積極的に反応するためには、一対一の対応が必要である。	次の理由(1つ以上)により、社会的交流に対して積極的に反応するためには、一対一の対応が必要である。 1. グループの交流に参加することをしばしば拒み、グループ内では引きこもり、明らかに居心地が悪そうである。 2. 言葉の意味を認知せず、言葉が実際に意味することよりもそのイントネーションに対してより反応する。 3. 顔の表情や視線を合わすことを主なコミュニケーションの方法としている。
	はい	いいえ	騒動を起こすため、定期的なレクリエーションプログラムに参加できなくなることもある。	次のような騒動を少なくとも1つ以上起こす。 1. 職員や他の利用者に対して不適切な言葉を発する。 2. 職員や他の利用者に対して攻撃的な行動を取る。 3. どなる。 4. 自虐的行動、又は職員や他の利用者に害を与えるような行動を取る。 5. レクリエーションプログラムの他の参加者に悪影響を与えるような騒動を起こす。
	はい	いいえ	社会的孤立	次のような社会的孤立状態に陥っている。 1. 全て又はほとんどのレクリエーション活動に参加することを拒否する。 2. 社会的交流のため人が訪れる機会は週に2回以下である。 3. 自分から他の利用者や職員と社交的会話をすることは日に1回以下である。

MARRCC(レクリエーション初期アセスメント) - 認知領域

利用者名:

記入者名:

		項 目	指 標
A	はい いいえ	4つの適応項目	周りの人々、場所、時間、日課に適応している。
	はい いいえ	選択能力及び決定事項の伝達能力	自分の力で適切に選択することができ、それを効果的に表現することができる。
	はい いいえ	読書を楽しむことができる。	本や雑誌を読むことができ、書物の内容に20分以上傾注することができる。
B	はい いいえ	口頭での指示に従うことができる。	一度に一つの指示に従うことができる。
	はい いいえ	注意力	話題や作業に注意を払うための声掛けは10分に1回以下である。
	はい いいえ	過去の出来事の回想能力	自分の人生について説明できる。(誕生日、旧姓、職歴、生まれ故郷等)
	はい いいえ	物を認知できる。	自分の前に置かれた物を正確に見分けることができる。
C	はい いいえ	話題にはついていけないが、コミュニケーションには反応する。	話題についていくため少なくとも5分に1回声掛けが必要であったり、あるいは言葉や概念を認識することが極端に困難ではあるが、コミュニケーションに対しては反応し続ける。
	はい いいえ	口頭での指示に一貫しては従うことができないが、感覚刺激のために置かれた物には注意を払うことができる。	一度に一つの指示に従うことはできないが、自分の前に置かれた物に対して意図的な反応を示す。(例:物を見つめる/物に触れる/物の臭いを嗅ぐ等)
	はい いいえ	物に一貫しては注意を払うことができないが、感覚刺激には反応する。	自分の前に置かれた物に注意を払うことはないが、職員による感覚刺激には反応する。

MARRCC(レクリエーション初期アセスメント) - 感情領域

利用者名:

記入者名:

	項	目	指	標
A	はい	いいえ	自己管理能力についての感情表現	本人の気持ちが次の項目のうち少なくとも2つに当てはまる。 1. “人生や将来に関して自分で決定することができる。” 2. “日常の活動に関して自分で決定することができる。” 3. “自由時間に何をするかを自分で決定することができる。”
	はい	いいえ	個人の文化的又は宗教的なニーズへの対応	文化や宗教関連のプログラムに積極的に参加し、次の項目のうち1つに当てはまる。 1. 文化的な素養を持ち、特定の伝統をいつもお祝いをしたり、尊重している。 2. 宗教的な素養を持ち、特定の伝統をいつもお祝いをしたり、尊重している。
	はい	いいえ	能力についての感情表現	本人の気持ちが次の項目のうち少なくとも2つに当てはまる。 1. “自分のことは自分でできる。” 2. “他人のためや他人に役立つことができる。” 3. “楽しい行事に参加できる。”
B	はい	いいえ	感情の認識・表現	感情を認識し、表現することができる。その結果、個人的なニーズを伝えることができる。
	はい	いいえ	感情の安定	状況に応じて理にかなった感情的反応をする。自制の程度は、社会観念上標準的な範囲内である。
	はい	いいえ	生活環境への感情的反応	顔の表情や声の出し方によって、生活環境についての感情を活発に表現する。
	はい	いいえ	うつ病のいかなる症状も明確には見受けられない。	次のいかなる症状も見受けられない。 1. 食欲が急激に変化する。 2. 以前楽しんでいたことに興味や楽しみがなくなる。 3. 睡眠パターンが変化する。 4. 突然集中力、物覚え、物事の決定などができなくなる。 5. 急激な疲労や脱力感が見られる。 6. 情緒不安定や行動の減少が見受けられる。 7. 自殺や死について考える。
C	はい	いいえ	学習意欲の喪失	認知力や体力があるにもかかわらず、日常の活動や選んだレクリエーション活動に積極的に参加しない。
	はい	いいえ	頻繁に不平不満や否定的な考えを口にする。	選んだレクリエーション活動に参加する上で悪い影響を与えるような否定的なことや不平不満を頻繁に述べる。
	はい	いいえ	動揺しやすい。	次の項目のうち1つに当てはまる。 1. すぐに動揺し、乱暴な言葉を発したり、乱暴な行動を起こすことがある。 2. すぐに動揺し、フラストレーションや過剰な刺激の状況に対して感情的に反応する。